

手賀沼底質における深度別放射性物質調査結果について

環境研究センターでは、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故により拡散した放射性物質について、今後の放射性物質の移動・移行等に関する知見を得ることを目的に、平成25年3月から手賀沼底質における深度別放射性物質調査を行っています。

令和3年度の調査結果は次のとおりでした。

1 調査概要

- (1) 調査日 令和3年8月30日（月）
- (2) 調査実施機関 環境研究センター
- (3) 調査地点 手賀沼5地点（図1のとおり）
大堀川河口，大津川河口，根戸下，手賀大橋下流，
手賀沼中央
- (4) 調査方法 底質を柱状採泥器により深さ約40cmまで採泥し、深さ2～5cmの層毎に放射性セシウム濃度（セシウム134，セシウム137）を測定した。

2 調査結果概要

- (1) 底質の放射性セシウム濃度(134及び137の合計)について（表1）

検出された放射性セシウムの濃度範囲は、前回調査（令和2年7月）に比べ、大堀川河口，根戸下，手賀沼中央で低く、大津川河口，手賀大橋下流で高くなった。

表1 深度別放射性セシウム濃度（134及び137の合計）

調査地点	検出濃度範囲	最大値となった深度(cm)	(参考)前回の検出濃度範囲
大堀川河口	228～1,246Bq/kg(乾泥)	25～30cm	127～2,940Bq/kg(乾泥)
大津川河口	25～3,950Bq/kg(乾泥)	25～30cm	1360～3,050Bq/kg(乾泥)
根戸下	不検出～2,179Bq/kg(乾泥)	18～20cm	不検出～2,500Bq/kg(乾泥)
手賀大橋下流	22～1,251Bq/kg(乾泥)	25～30cm	不検出～675Bq/kg(乾泥)
手賀沼中央	20～741Bq/kg(乾泥)	4～6cm	不検出～885Bq/kg(乾泥)

- (2) 深度別放射性セシウム濃度（図2）

深度別の放射性セシウム濃度の状況は、前回調査（令和2年7月）に比べ、放射性セシウムの最大濃度を示した深度が、手賀大橋下流，手賀沼中央で深い位置となった。



図 1 調査地点

問い合わせ先：

千葉県環境研究センター
水質環境研究室

電話 0 4 3 - 2 4 3 - 2 9 3 5

FAX 0 4 3 - 2 4 3 - 2 9 6 0

今回調査（令和3年8月）の結果

(参考) 前回調査(令和2年7月)の結果

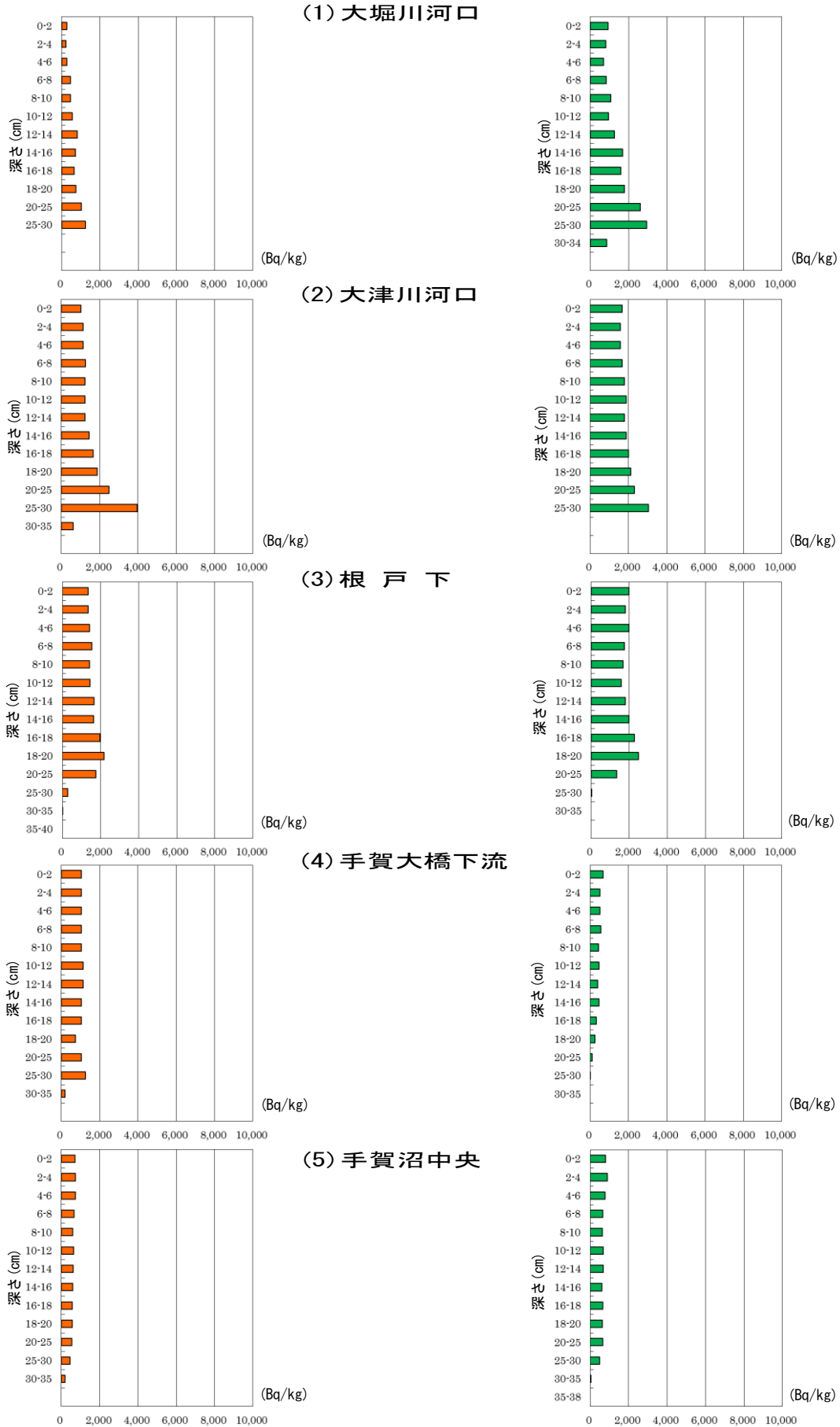
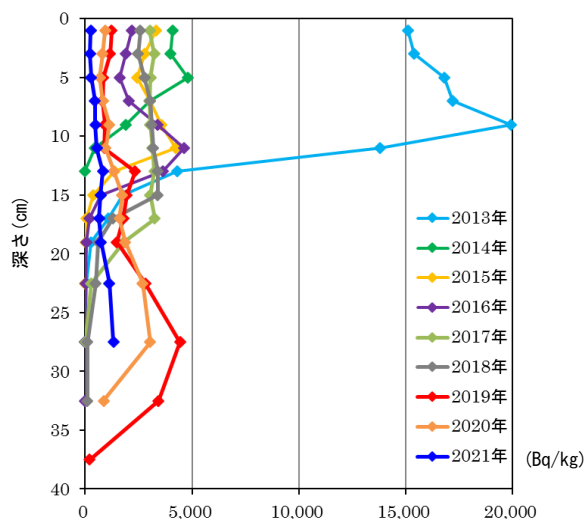
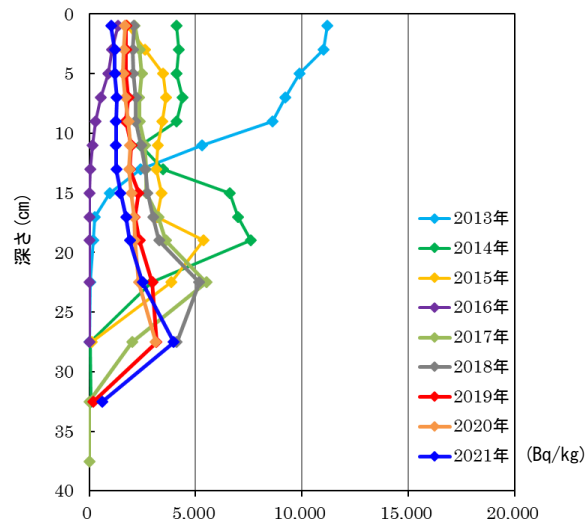


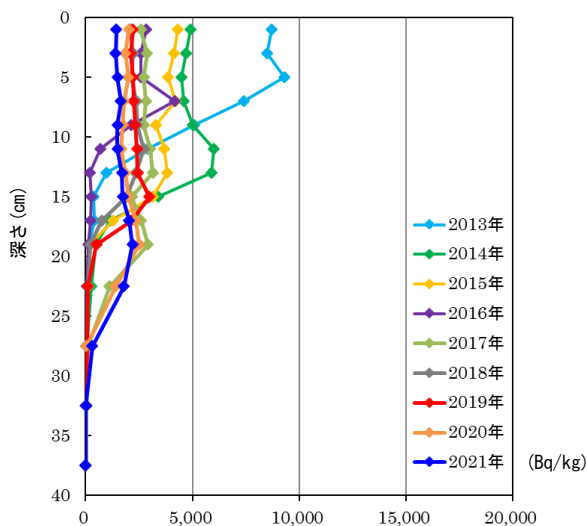
図2 手賀沼底質の深度別放射性セシウム (Cs134+Cs137) 濃度
 (各地点複数採取した試料のうち最大濃度値を示した試料での深度別濃度)



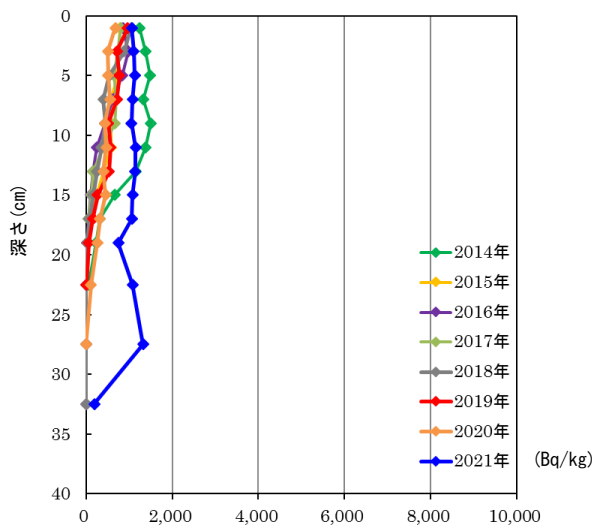
(1) 大堀川河口



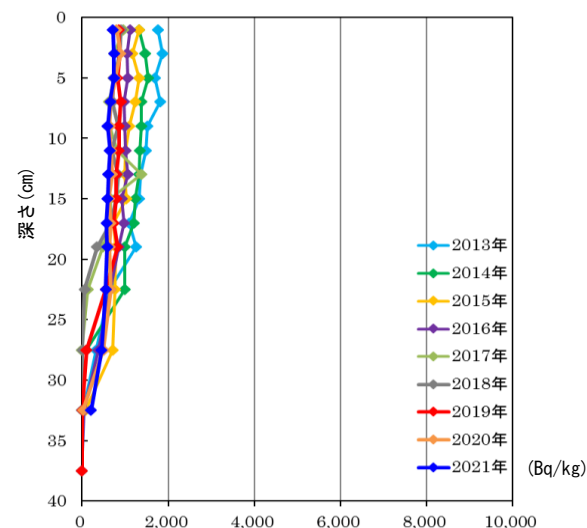
(2) 大津川河口



(3) 根戸下



(4) 手賀大橋下流



(5) 手賀沼中央

参考図 手賀沼底質の深度別放射性セシウム (Cs134+Cs137) 濃度の推移
 (各地点複数採取した試料のうち最大濃度値を示した試料での深度別濃度)